

きこえのチェックは、
地域の元気を測ること。



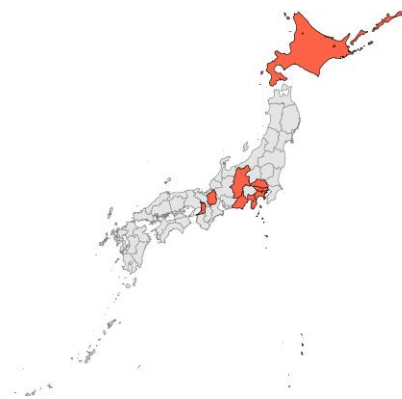
RIONET

令和X年XX月
XX日

きこえチェッカー

加齢性認知症の主要なリスク因子の一つであり、早期に「聞こえの変化」に気づき、適切な対応を行うことが、認知症予防において重要です。そのためには、予防として住民自身が気づきを得る機会を提供し、対策として耳鼻科受診や補聴器相談につなげる仕組みが必要です。きこえチェッカーは、こうした気づきと行動変容を促し、定期的の実施することで経年変化の把握や継続的な支援にも活用できるツールです。

全国のきこえチェッカー実施地域



きこえチェッカーは現在〇つの
地域で使用されました。

1. 実施の目的

本取組は、加齢性難聴の早期発見と対応を通じて、認知症のリスク要因の一つである「難聴」を管理し、住民の健康寿命の延伸と生活の質の向上を図ることを目的として実施しました。また、本事業は、WHO が推奨する認知症リスク低減項目のひとつ「加齢性の管理」に該当し、認知症施策推進大綱における「予防」の観点に資する内容となっております。

2. 既存施策との連携状況

今回の実施にあたり、以下のような既存事業と連携を図りました(実施 / 未実施)。

- 地元耳鼻咽喉科医への声かけ
 - 〇〇病院(補聴器相談医 不明)
 - △△耳鼻科(補聴器相談医 不明)
- 言語聴覚士等による相談会
- 補聴器販売事業者との協力体制
 - 補聴器相談会
 - 補聴器展示
 - カタログ展示又は配布

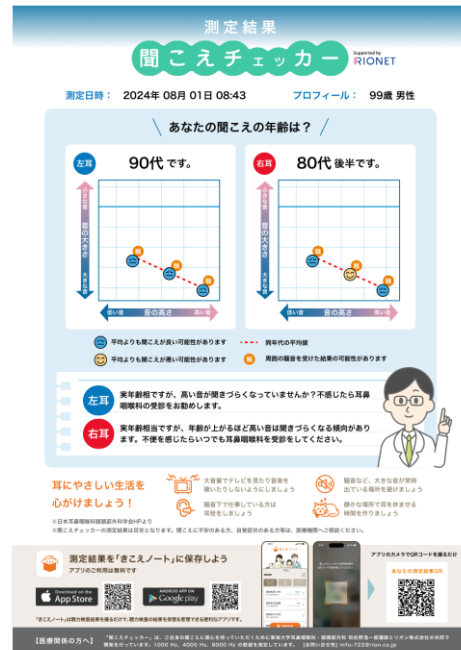
これにより、新規の枠組みをつくらずに、既存資源の有効活用と効率的な実施が可能となりました。

3. 実施概要

対象者: **65歳**以上の住民の方を中心に、特に聞こえに不安を感じている方を対象としました。

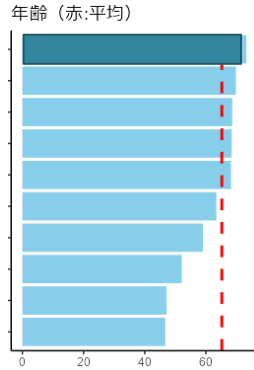
実施期間・会場: **2025年6月～7月**に、**〇**会場で実施しました。

実施方法: 会場にてきこえチェッカーを**〇**台設置し、ヘッドホンから1000Hz/4000Hz/8000Hzの測定音を左右耳それぞれに提示し、測定結果から聞こえ年齢を算出とともにアンケートを行い、本人に「聞こえ年齢」の結果用紙をフィードバックしました(右図参照)。



4. 結果の概要

参加者の年齢 平均: ____ 歳(平均: ____ 歳)



過去のデータがある場合は
横軸は年月, 縦軸は平均年齢
の縦棒グラフをここに表示する

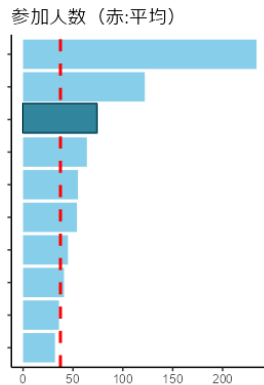
今回のイベントにおける平均年齢

過去の平均年齢の推移

性別内訳: 男性〇名(〇%)、女性〇名(〇%)

聞こえの年齢

参加者 ____ 名(平均: ____ 歳)

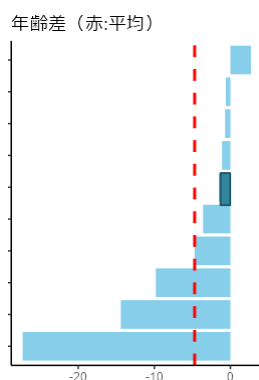


過去のデータがある場合は
横軸は年月, 縦軸は人数
男性と女性の参加者が積み
あがった棒グラフをここに表
示する

今回のイベントにおける参加者数

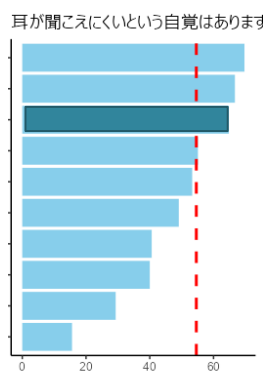
過去の参加者数の推移

聞こえの年齢と実年齢の差: ____ 歳 (平均: ____ 歳)



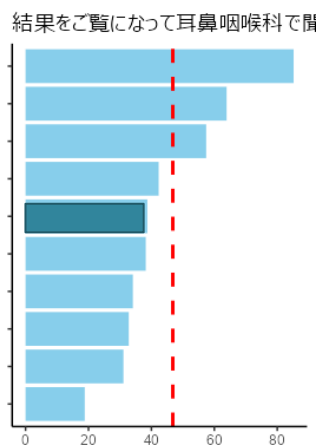
過去のデータがある場合は
横軸は年月, 縦軸は聞こえの
年齢と実年齢の差分の平均
値の縦棒グラフをここに表示
する

アンケート「耳が聞こえにくい自覚あり」: ____ % (平均: ____ %)



過去のデータがある場合は
横軸は年月, 縦軸は自覚の割
合の縦棒グラフをここに表示
する

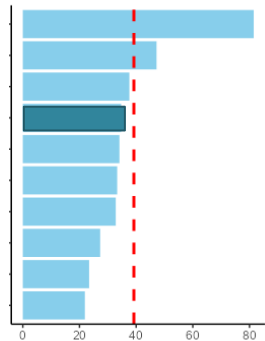
「耳鼻咽喉科で診てもらおうと思った」: ____ % (平均: ____ %)



過去のデータがある場合は
横軸は年月, 縦軸は自覚の割
合の縦棒グラフをここに表示
する

「耳鼻科を受診したことがある」: ___%(平均: ___%)

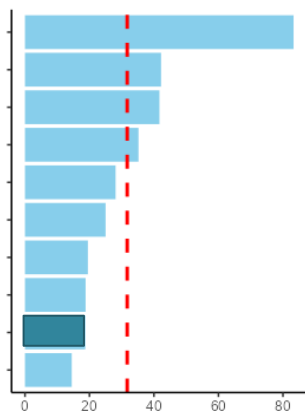
これまでに聞こえについて耳鼻科を受



過去のデータがある場合は
横軸は年月, 縦軸は自覚の割合の縦棒グラフをここに表示する

「補聴器を使ってみたくなくなった」: ___%(平均: ___%)

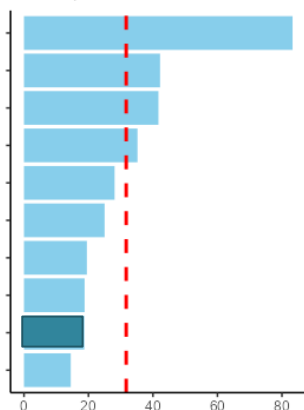
この結果をみて補聴器を使ってみたく



過去のデータがある場合は
横軸は年月, 縦軸は自覚の割合の縦棒グラフをここに表示する

「テレビや会話の音量を家族から指摘されたことがありますか」: ___%(平均: ___%)

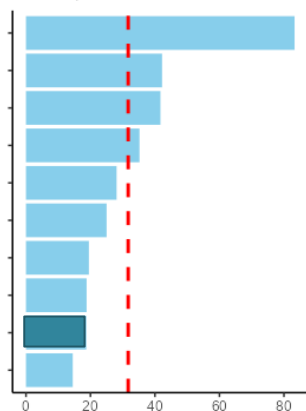
この結果をみて補聴器を使ってみたく



過去のデータがある場合は
横軸は年月, 縦軸は自覚の割合の縦棒グラフをここに表示する

「人と話すとき、聞き返すことが増えたと感じますか」: ___%(平均: ___%)

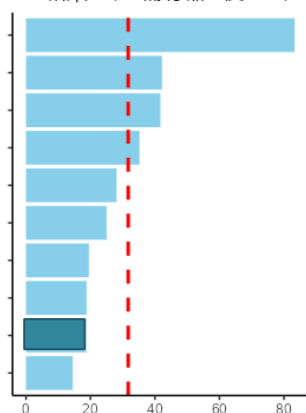
この結果をみて補聴器を使ってみたく



過去のデータがある場合は
横軸は年月、縦軸は自覚の割合の縦棒グラフをここに表示する

「最近、人と話す機会や外出の回数が減ったと思いますか」: ___%(平均: ___%)

この結果をみて補聴器を使ってみたく



過去のデータがある場合は
横軸は年月、縦軸は自覚の割合の縦棒グラフをここに表示する

5. 評価と今後の活動

連携施策の実施状況(実施済 / 未実施)

- イベント当日に補聴器店との連携(展示・説明会)を実施
- イベント後に希望者向けの言語聴覚士による個別相談を実施
- 結果を記録・活用できる「きこえノート」アプリを紹介・案内済み

6. 評価

5文以上記載。



7. 次年度への展開に向けて(PDCA)

4文以上記載。

年度ごとの効果検証を通じて、事業の継続的な改善(PDCA サイクル)を図ってまいります。

以上